

○計画期間：平成 26 年 4 月～令和 2 年 3 月（6 年）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成 30 年度終了時点（平成 31 年 3 月 31 日時点）の中心市街地の概況

本市の中心市街地は、平成 26 年 3 月に「第 2 期高崎市中心市街地活性化基本計画」の認定を受け、継続した中心市街地の活性化に取り組んでいる。平成 31 年 3 月には、主要なハード事業の進捗の遅れ等に対応するため、計画期間を 1 年延長する変更認定を受けたところである。

中心市街地活性化の戦略として高崎駅徒歩圏に整備する「新体育館（高崎アリーナ）」、「高崎文化芸術センター（高崎芸術劇場）」、「群馬県コンベンション施設（群馬コンベンションセンター）」のハード事業においては順調に整備が進捗し、平成 29 年度に高崎アリーナが開館し、高崎芸術劇場、群馬コンベンションセンターについても令和元年度中に完成の予定である。

さらに、高崎駅西口と直結する「高崎オーパ」も平成 29 年 10 月に開業し多くの来場者で賑わうなど、本市の中心市街地は、交流人口が大きく増加する都市構造に変化してきている。

これら、交流人口の増加を見込み、来街者を中心市街地全体へ波及させるための事業として、賑わいと回遊性の向上を目的に継続実施している「高崎まちなかオープンカフェ推進事業」や「高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業」、個店の魅力や集客力を高める「高崎市まちなか商店リニューアル助成事業」により、歩行者・自転車通行量は大幅に増加し、まちなか回遊の効果が着実に表れている。

今後は、中心市街地に更なる面的効果を波及させるため、新たに、まちなかを乗り降り自由で無料で循環する交通手段「お店ぐるりんタクシー」の運行や平成 29 年度に再整備が完了した中央銀座商店街のアーケードを活用したイベント等を計画しており、官民一体となった中心市街地の活性化に向けて取り組んでいる状況である。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度 1 月 1 日）

（中心市街地 区域）	平成 25 年度 （計画前年度）	平成 26 年度 （1 年目）	平成 27 年度 （2 年目）	平成 28 年度 （3 年目）	平成 29 年度 （4 年目）	平成 30 年度 （5 年目）
人口	27,404 人	27,568 人	27,866 人	28,143 人	28,099 人	27,949 人
人口増減数	413 人	164 人	298 人	277 人	△44 人	△150 人
自然増減数	—	—	—	—	—	—
社会増減数	—	—	—	—	—	—
転入者数	—	—	—	—	—	—

※自然増減数、社会増減数、転入者数については集計していない。

## 2. 平成 30 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

平成 30 年度は、昨年度に続き「歩行者・自転車通行量（休日）」が基準値を大きく上回る結果となったが、これは、毎年恒例の大規模イベントや様々な施策の継続実施の効果の他、平成 29 年 10 月に開業した高崎オーパの集客による波及効果や高崎駅西口周辺のペDESTリアンデッキ整備により回遊性が向上したことが大きく影響していると推測される。

また、「小売業年間商品販売額」は高崎オーパ開業により周辺の大型店舗も売上げを伸ばすなど、相乗効果が生まれており、大幅な増加が見込まれる。この相乗効果を大型店だけではなく、中心市街地全体の個店にも波及させていくことが重要であるとする。

「文化施設の利用者数の合計値」は前年度から大きく減少したが、これは大規模な催事が少なく、市民団体の展示等の利用が多かったこと等が要因となっているとのことであり、市民の文化活動も含めた文化事業の実施と定着は着実に図られてきているものと評価できる。

現在、高崎駅周辺では大きく集客力が増加しており、この流れを今後もさらに加速し、効果を中心市街地全体に広げていくような展開を引続き期待するものである。

## II. 目標毎のフォローアップ結果

### 1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
市民・まちなか居住者・広域来訪者が楽しく回遊できるまち	歩行者・自転車通行量 (休日)	101,411 人/日 (H24)	108,500 人/日 (R1)	159,734 人/日 (H30)	A	①	①
高い集客力を生かした経済活力にあふれるまち	小売業年間商品販売額	1,172 億円/年 (H23)	1,375 億円/年 (R1)	1,297 億円/年 (H30)	B	① (H28)	②
音楽を中心とした“高崎文化”を創造・発信するまち	文化施設の利用者数の合計値	612,251 人/年 (H24)	1,070,770 人/年 (R1)	597,922 人/年 (H30)	C	④	④

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値達成、C：基準値未達成

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

### 2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量（休日）」については、「高崎市まちなか商店リニューアル助成事業」、「高崎まちなかオープンカフェ推進事業」、「高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業」、その他、基本計画掲載のソフト事業の実施に加え、平成 29 年 10 月に開業した高崎オーパの集客による波及効果や高崎駅西口周辺のペDESTリアンデッキ整備等により、中心市街地の魅力の拡大

と回遊性の向上が図られ、通行量は昨年度から更に大幅増となった。今後も事業の継続実施により目標の達成を目指す。

「小売業年間商品販売額」については、平成 30 年度の調査の結果、平成 28 年度の間調査時の数値から順調に伸びている。これは、高崎オーパの開業で多くの買い物客で賑わうとともに、周辺店舗にも売上げを伸ばす店舗が見受けられるなどプラスの波及効果が表れているためである。当初効果を見込んでいた主要なハード事業の進捗が遅れているため、目標値達成は厳しい状況だが、今後も各施設の整備、中心市街地への誘引施策等、基本計画に掲載した事業の継続と平成 31 年 3 月変更で計画に追加した新たなイベントの実施による効果により目標の達成を目指す。

「文化施設の利用者数の合計値」については、評価の対象となる高崎芸術劇場の完成・開館が令和元年度中の予定で効果の発現も遅れる見込みであるため、その他の対象 4 施設での魅力的な催しを継続して行うとともに、まちなかに人を呼び込む新たなイベントや駅前的大型ビジョンでの情報発信を行うなど、引き続き増加のための施策を展開し目標の達成を目指す。

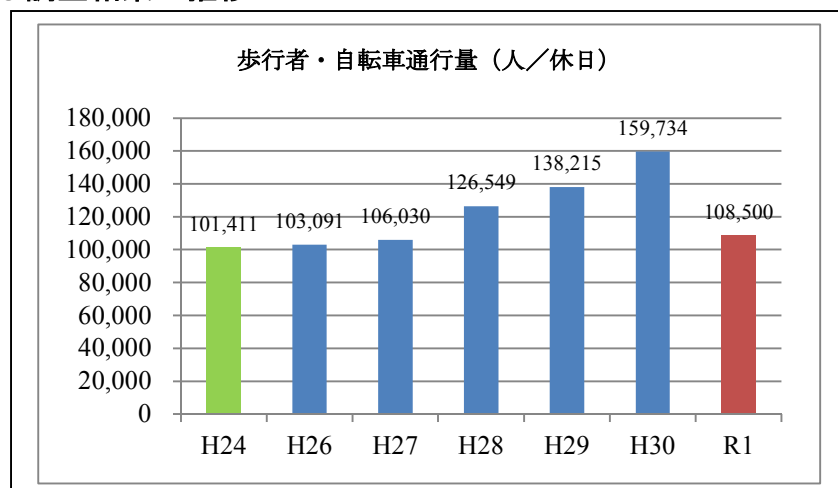
### 3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「歩行者・自転車通行量（休日）」と「文化施設の利用者数の合計値」については、前回から変更なし。また、「小売業年間商品販売額」については、地域交流センター整備事業（高崎文化芸術センター整備事業）や群馬県コンベンション施設整備事業の進捗が中間時点の平成 28 年度のフォローアップ時以降遅れ、効果の発現が当初ほど見込めなくなったため、②と評価した。

### 4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者・自転車通行量（休日）」※目標設定の考え方基本計画 P68～P75 参照

#### ●調査結果の推移



年	（人/日）
H24	101,411 （基準年値）
H26	103,091
H27	106,030
H28	126,549
H29	138,215
H30	159,734
R1	108,500 （目標値）

※調査方法：10月の第4日曜日に14地点で10時から20時まで計測

※調査月：平成30年10月

※調査主体：高崎市

※調査対象：中心市街地14地点における歩行者及び自転車の通行量

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 高崎市まちなか商店リニューアル助成事業（高崎市）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	市内の店舗等で新たな競争力をつけるために行うリニューアル工事にかかった費用の一部を支援する。この事業により、店舗等の魅力や集客力、賑わいや回遊性が向上し、中心市街地の活性化に寄与する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成 30 年度本事業の制度を活用した店舗のうち、その約 3 割、100 件程度が中心市街地の店舗となっており、魅力ある店舗づくりが進んだことから歩行者・自転車通行量が増加した。また、制度を活用した店舗には新たなコミュニティが構築されるなど、賑わいや店舗間の回遊性の向上にも寄与している。
事業の今後について	平成 30 年度から 2 回目のリニューアルの申請も認めるなど、個店の魅力のアップのために令和元年度も事業を継続。

②. 高崎まちなかオープンカフェ推進事業（高崎まちなかオープンカフェ推進協議会）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	都市再生特別措置法の改正を契機に歩道上でオープンカフェが行えるようになったことから、まちなかに新たな回遊性と賑わいを創出するため実施している事業。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 26 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	本事業は、平成 25 年度から継続して行っており、参加店舗は開始時の 13 店舗から平成 30 年度には 19 店舗に増加するなど、事業も着実に定着してきており、中心市街地の賑わいの向上に寄与している。
事業の今後について	まちなかの賑わいの創出をさらに図っていくために事業を継続していく。

③. 高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業

（高崎まちなかコミュニティサイクル推進協議会）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	まちの移動手段の多様化は都市の魅力を高めることから、新たな交通手段として実施する事業。この事業を行うことにより、中心市街地に新たな賑わいと回遊性の向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 26 年度～令和元年度）
事業効果及び進	本事業は、平成 25 年度から継続して行っている事業であり、自転車数

捗状況	が開始時の 100 台から 150 台に、サイクルポートが 12 箇所から 16 箇所に増加した。中心市街地を移動する新たな交通手段として事業も定着しており、中心市街地の回遊性の向上に寄与している。
事業の今後について	まちなかの賑わいと回遊性をさらに向上させるために事業を継続していく。

④. 地域交流センター整備事業（高崎文化芸術センター整備事業）（高崎市）

事業実施期間	平成 22 年度～令和元年度【実施中】
事業概要	群馬県の玄関口である高崎駅の利便性や高速交通網を生かした広域誘客を図るため、芸術文化創造の中心となる施設を整備し、賑わいと情報発信の拠点とする。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎駅東南地区））（国土交通省）（平成 26 年度～平成 28 年度） ②社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（高崎駅東口地区））（国土交通省）（平成 26 年度～令和元年度） ③社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎駅東口周辺地区））（国土交通省）（平成 29 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される高崎文化芸術センター（高崎芸術劇場）は、その規模とともに催しの前後における飲食や買い物等に大きな効果をもたらす。平成 28 年度に着工し平成 30 年度に完成する予定であったが、工期に遅れが生じ、令和元年度に完成予定となったため、計画期間の 1 年延長と事業実施期間の変更を行った。
事業の今後について	令和元年 9 月の開館を目指して事業を進めていく。

⑤. 新体育館建設事業（高崎市）

事業実施期間	平成 24 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	老朽化した中央体育館を移転新築し、市民が利用しやすい施設・設備とすることで、市民スポーツの普及と振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎駅東南地区）と一体の効果促進事業）（国土交通省）（平成 26 年度～平成 28 年度）
事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される新体育館は、その規模とともに催しの前後における飲食や買い物等に大きな効果をもたらす。平成 28 年 12 月に建物が完成し、平成 29 年 4 月に開館した。平成 30 年度の年間の利用者数は 28 万 5 千人となっており、まちなかの賑わいの創出に寄与している。
事業の今後について	広域からの交流人口を誘引する都市集客施設として、大規模大会の誘致・開催等により集客に取組み、まちなかのにぎわい創出につなげていく。

⑥. 群馬県コンベンション施設整備事業（群馬県）

事業実施期間	平成 25 年度～令和元年度【実施中】
事業概要	高崎競馬場跡地に大規模展示施設、メインホール、大規模な学術会議に対応する会議室を備えたコンベンション施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（群馬県コンベンション地区））（国土交通省）（平成 26 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される群馬県コンベンション施設は、その規模とともに催しの前後における宿泊や飲食等に大きな効果をもたらす。整備基本計画を見直し、平成 30 年 1 月から建設工事に着手しているが、事業完了を令和元年度末としていることから計画期間内の効果は望めない状況となっている。
事業の今後について	令和元年度末の事業完了、令和 2 年 4 月の開館に向けて計画的に工事を進めていく。

⑦. 高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業（再開発組合）

事業実施期間	平成 22 年度～令和 4 年度【実施中】
事業概要	群馬県の玄関口である高崎駅の利便性や高速交通網を生かした広域誘客を図るため、商業・オフィスビルを整備し、賑わいと情報発信の拠点とする。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（平成 26 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される商業・オフィス・ホテルなどで構成される再開発ビルは、集客力の向上や賑わいの創出に寄与し、飲食や買い物等に大きな効果をもたらす。現在は、事業着工に向け準備を行っているところである。整備基本計画を見直し、事業完了を令和 4 年度としたことから計画期間内の効果は望めない状況となっている。
事業の今後について	再開発準備組合で基本計画案を協議決定し、都市計画決定、再開発組合の設立と事業を進めていく。

⑧. 高崎オーパ整備事業（株式会社 オーパ）

事業実施期間	平成 27 年度～平成 29 年度【済】 [認定基本計画：平成 26 年度～平成 29 年度]
事業概要	ビブレ跡地などに高崎オーパを整備し、広域からの集客向上と商業拠点の機能強化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	高崎駅西口のビブレが閉店し、ビブレの規模を上回る新たな高崎オーパの整備を行った。平成 29 年 10 月にオープンし、多くの買い物客で賑わいを創出しており、また、周辺店舗にも売上げを伸ばす店舗が見受けられ

	るなどプラスの波及効果が表れている。
事業の今後について	広域からの交流人口を誘引する大型商業施設として、周辺店舗も含んだ高崎駅周辺のより一層の集客を図り、まちなかのにぎわい創出につなげていく。

⑨. 高崎駅西口ペDESTリアンデッキ整備事業（高崎市）

事業実施期間	平成 26 年度～平成 30 年度【済】 [認定基本計画：平成 22 年度～平成 30 年度]
事業概要	高崎駅から西口駅前広場に面して整備される商業施設をペDESTリアンデッキで接続することで、安全・快適な歩行者空間を確保するとともに、駅東西自由通路を介した回遊性と賑わいの向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎市中心市街地地区））（国土交通省）（平成 27 年度～平成 30 年度） [認定基本計画：平成 26 年度～平成 30 年度]
事業効果及び進捗状況	平成 30 年度は、高崎駅西口駅前広場に面した大型商業施設（高崎オーパ）から公営立体駐車場に続くペDESTリアンデッキの附属物の整備と、大型商業施設から東二条線（市道）を跨ぐペDESTリアンデッキの築造工事を行った。これにより安全・快適な歩行者空間が確保され、駅や駐車場から大型商業施設へのアクセスがスムーズになり集客力が増したことで、歩行者通行量の増加、回遊性の向上に寄与している。
事業の今後について	高崎駅西口に整備された安全・快適な歩行者空間を多くの人に利用してもらうことにより、中心市街地における更なる回遊性向上、にぎわいの創出を図っていく。

⑩. 高崎公園・烏川緑地間人道橋整備事業（高崎市）

事業実施期間	平成 24 年度～平成 26 年度【済】
事業概要	中心市街地に位置する高崎公園から国道 17 号を跨ぎ烏川緑地へと連絡する人道橋を整備することにより、水辺を身近に感じることのできる潤いのあるまちづくりを創出するとともに、まちなか回遊性の向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎市中心市街地地区））（国土交通省）（平成 26 年度）
事業効果及び進捗状況	本事業は、平成 26 年度に完了し、中心市街地における都心部と水辺空間を一体的に回遊できるルートが確保されたことにより、歩行者・自転車通行量の増加に寄与している。
事業の今後について	烏川緑地での集客イベントの開催等より、都心部と水辺空間の一体的な回遊がさらに図られるよう取組んでいく。

⑪. 高崎駅東口ペDESTリアンデッキ整備事業（高崎市）【平成 27 年度追加】

事業実施期間	平成 28 年度～令和元年度【実施中】
--------	---------------------

事業概要	高崎駅と高崎駅東口に整備される集客施設をペDESTロリアンデッキで接続することで、安全・快適な歩行者空間を確保するとともに、駅東西の回遊性と賑わいの向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎市中心市街地地区））（国土交通省）（平成28年度～令和元年度） ②社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎駅東口周辺地区））（国土交通省）（平成29年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	高崎駅から高崎文化芸術センターまでの間をペDESTロリアンデッキでつなぐことで、駅から訪れる人にとっての安全・快適な歩行空間を確保し、施設利用者や歩行者通行量の増加に寄与する。平成30年度は、第1工区（3カ年目：L=168m）と第2工区（2カ年目：L=142m）について築造工事を実施し、進捗率は80%となっている。
事業の今後について	高崎文化芸術センター（高崎芸術劇場）の開館予定の令和元年9月までに事業が完了できるよう工事を進めていく。

⑫. 高崎駅西口駅前広場整備事業（高崎市）【平成28年度追加】

事業実施期間	平成29年度【済】
事業概要	高崎駅西口駅前広場の再編整備を行うことで、慢性的な渋滞の緩和、公共交通の定時性の確保、歩行者の安全性・利便性の向上を図るとともに、東西駅前広場に隣接する施設への回遊性を高める。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎市中心市街地地区））（国土交通省）（平成29年度）
事業効果及び進捗状況	大型商業施設「高崎オーパ」の進出及びペDESTロリアンデッキの増改築に伴い、駅西口駅前広場の新たな交通需要に対応していくため、駅前広場の再編成整備（タクシープールの再編、公共交通と一般車両の区分け等）を実施したことで、円滑な交通の確保、歩行者の安全性の向上につながっている。
事業の今後について	整備後も引き続き円滑な交通、歩行者の安全性を確保できるよう努め、より多くの人に利用してもらうことにより駅前のにぎわいの創出につなげていく。

⑬. まちなか緑化重点整備事業（高崎市）

事業実施期間	平成27年度～平成29年度【済】 [認定基本計画：平成25年度～平成29年度]
事業概要	緑が少なく潤いに乏しい中心市街地に、身近な緑のネットワークを形成し、都市のイメージを向上させるシンボル性のあるまちなみを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進	中心市街地の緑オアシスとして市民に親しまれている城址の土塁であ



捗状況	るが、年々樹木の老木化が進行し、緑の減少につながっている。このため平成 27 年度より平成 29 年度までの 3 年をかけ、サクラの植樹を行ったことにより、シンボル性のある緑地が創出され、中心市街地の賑わいに寄与している。
事業の今後について	既存及び、植樹したサクラの木の維持保全を継続して行い、開花する春だけでなく一年を通じて中心市街地を訪れる人に緑の潤いを提供し、賑わいの創出につなげていく。

⑭. 多機能型住居整備事業（医療法人社団 山崎会ほか）

事業実施期間	平成 26 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	多機能型住居（子ども預かり施設、福祉センター、多世代交流施設、学生向け住宅など）を整備し、中心市街地の交流と賑わいの向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	中心市街地に、民間事業者と市が協働で福祉サービスと住居機能が一体となった施設を整備することにより、多世代が交流できる生活空間の創出を図った。事業は平成 28 年度に完了し、多世代にわたる人々が入居・入所、施設利用等で利用することにより、まちなかの賑わいと回遊性の向上に寄与している。
事業の今後について	多機能型住居の更なる利用を促し、施設利用者や入居者にまちなかの商店街等に立寄ってもらうことにより、回遊性の向上、賑わいの創出を図っていく。

⑮. 高崎商都博覧会（高崎商工会議所、高崎商都博覧会実行委員会）

事業実施期間	平成 22 年度～【実施中】
事業概要	商都高崎の魅力を発信するため、中心市街地の大型商業施設 5 店舗をパビリオンと位置付け、各店が趣向を凝らしたイベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 26 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	中心市街地の大型店 5 店舗での買い物や高崎まちなかオープンカフェ参加店での食事等をした人を対象にして、約 2,000 本の景品が当たる抽選会を実施。期間中は多くの人が訪れ、まちなかの経済活力の向上と回遊性の向上に寄与している。平成 30 年度は 4 月に 6 日間開催した。
事業の今後について	今後も、まちなかの経済活力と回遊性の向上のために事業を継続していく。

⑯. 都市計画道路仲通り線修景施設整備事業（高崎市）【平成 27 年度追加】

事業実施期間	平成 27 年度～平成 29 年度【済】
事業概要	商店街の通りの賑わいと活力の向上を図るため、屋根を設置して連続し

	た都市空間を創出するとともに、昭和の風情漂う飲食店街の整備を進める。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎市中心市街地地区））（平成 28 年度）
事業効果及び進捗状況	大雪で崩落した中央銀座商店街のアーケードの屋根を修復するにあたり、昭和の風情漂う空間づくりを目指して、飲食店街や道路と一体的に再整備を行った。平成 29 年度に工事は完了し、中心市街地の新たな集客の拠点として効果が期待される。
事業の今後について	再整備したアーケードにおいて集客イベントを検討・実施することにより、中央銀座商店街とその周辺地域のにぎわいの創出を図る。

⑰. 高崎だるま市（高崎だるま市実行委員会）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	高崎を代表する伝統工芸品である「高崎だるま」を販売するだるま市を、元日からまちなかで開催することで、本市への誘客と中心市街地の活性化につなげていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	元旦・2日に高崎駅西口駅前通りを交通規制して高崎だるま市を開催した。高崎だるまの販売、開運たかさき食堂の出店、おもてなしイベントの開催、初詣無料巡回バスの運行などを実施し、2日間で約35万人の来場者を集めるなど、まちなかの賑わいの創出に大きく寄与している。
事業の今後について	年始に中心市街地の活気を醸成する代表的な事業として今後も継続していく予定。

⑱. たかさきキッズパーク（たかさきこどもまつり実行委員会）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の公共施設内に世界の優れたあそび道具を集めた全天候型のあそび場を設置することにより、親子連れなど多くの人々に楽しんでもらうとともに、まちなかを訪れる機会を創出し、活性化につなげていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	平成 30 年度は 9 月の 10 日間、市総合保健センター内で開催。子どもの心、体、あたまの全てを使う多様な遊具で親子一緒に遊んでもらい、期間中は 1 万人以上が来館するなど、まちなかの賑わいの創出に寄与している。
事業の今後について	より多くの人々がまちなかを訪れる機会を創出する事業として令和元年度も実施していく。

⑱. 高崎菓子まつり（高崎菓子業組合）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	市内の菓子職人が腕を振るったお菓子を一同に味わうことができるほか、プロが教える菓子づくり体験などを実施することにより、市内外からの多くの誘客を図り、まちなかの賑わいの創出につなげていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	平成 30 年度は、中心市街地の広場を会場として、ワンコイン菓子（100 円）の販売、菓子作りやパン焼きの体験、音楽の演奏等を実施し、約 8,000 人の来場者を集めるなど、まちなかの賑わいの創出に寄与している。
事業の今後について	まちなかのにぎわいの創出に寄与する事業として令和元年度も実施していく。

⑳. たかさきハロウィン（たかさきハロウィン実行委員会）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	こどもから大人まで参加できる仮装コンテストや音楽ライブを実施し、若者だけでなく家族連れなど多くの人々がまちなかを訪れることができる機会を提供する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	2 回目の開催となった平成 30 年度は、仮装コンテストやフェイスペイント、スタンプラリー、フォトスポット設置など様々なイベントを実施し、多くの若者や家族連れにまちなかのスポットを回遊してもらうことで、中心市街地の賑わいの創出、経済活力の向上に寄与している。
事業の今後について	まちなか全体のにぎわいの創出に寄与する事業として令和元年度も実施していく。

㉑. 高崎アートインキュベーション推進事業（高崎アートインキュベーション推進会議）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	高崎駅周辺を中心としたエリアで、アート（音楽・美術・デザイン・パフォーマンス等）によるまちづくりを進め、発信型のアートの創造と文化産業の創出等を行うことで、本市への誘客と中心市街地の活性化につなげていく。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成 28 年度～平成 30 年度）
事業効果及び進捗状況	国際的に活躍するアーティストから新進気鋭の若手まで、13人の優れたアーティストが高崎市に集結し、中心市街地の広場や街路樹、街灯、建

	物壁面などに作品を制作し、まちなかがアートに染まる「アートプロジェクト高崎」を開催するなど、文化芸術振興はもとよりまちなかの誘客にも寄与した。
事業の今後について	まちなかを歩いて回遊する機会を創出する事業として令和元年度も実施していく。

②. たかさき観光情報海外発信事業（高崎市）【平成 29 年度追加】

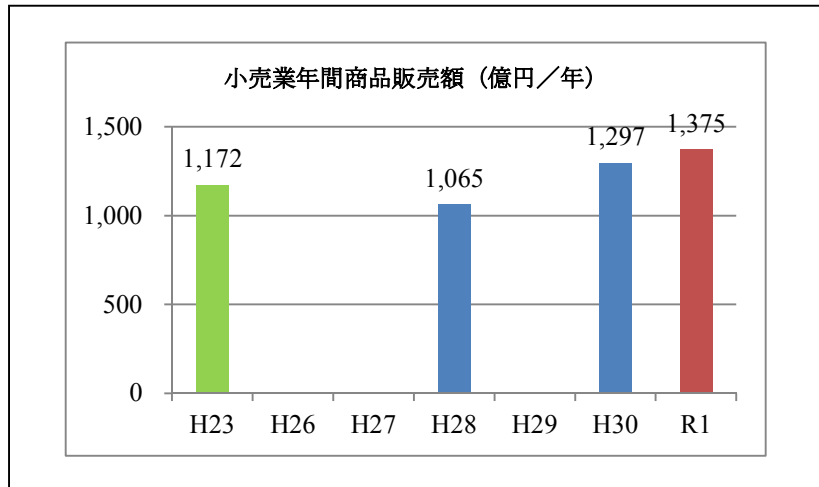
事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	高崎市で認定した「高崎観光大使」が発信している観光やグルメ情報などの地域的话题を、「高崎市外国人観光客おもてなし通訳・翻訳ボランティア」に翻訳してもらい、言語ごとに SNS を利用し、情報発信を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	約 20 名の翻訳ボランティアが、高崎市の魅力ある情報を翻訳し、SNS により情報発信を行っている。平成 30 年度は、6 言語（英語・中国語・台湾語・韓国語・タイ語・ポーランド語）に翻訳し、271 件の投稿を行うなど、中心市街地を中心とした市内各地域への誘客に寄与している。
事業の今後について	外国人を対象としたまちなかへの誘客施策の一つとして令和元年度も実施していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

高崎市まちなか商店リニューアル助成事業、高崎まちなかオープンカフェ推進事業、高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業の継続実施により効果が着実に表れるとともに、平成 29 年度にオープンした新体育館と高崎オーパは、通行量の増加に大きく寄与していると考えられることから、今後も、広域からの集客効果をもたらす高崎駅周辺の都市集客施設の事業を進めるとともに、回遊性を向上させる様々な施策との相乗効果により交流人口を増加させ、更に実績を伸ばしたい。

「小売業年間商品販売額」 ※目標設定の考え方基本計画 P76～P84 参照

●調査結果の推移



年	(億円/年)
H23	1,172 (基準年値)
H26	
H27	
H28	1,065
H29	
H30	1,297
R1	1,375 (目標値)

※調査方法: 商業統計調査、経済センサス等に基づく推計

※調査年: 平成 30 年度

※調査主体: 高崎市

※調査対象: 中心市街地の小売業

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 高崎駅東口栄町地区市街地再開発事業 (再開発組合)

事業実施期間	平成 22 年度～令和 4 年度【実施中】
事業概要	群馬県の玄関口である高崎駅の利便性や高速交通網を生かした広域誘客を図るため、商業・オフィスビルを整備し、賑わいと情報発信の拠点とする。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金 (市街地再開発事業等) (国土交通省) (平成 26 年度～令和元年度)
事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される商業・オフィス・ホテルなどで構成される再開発ビルは、集客力の向上や賑わいの創出に寄与し、飲食や買い物等に大きな効果をもたらす。現在は、事業着工に向け準備を行っているところである。整備基本計画を見直し、事業完了を令和 4 年度としたことから計画期間内の効果は望めない状況となっている。
事業の今後について	再開発準備組合で基本計画案を協議決定し、都市計画決定、再開発組合の設立と事業を進めていく。

②. 高崎オーパ整備事業 (株式会社 オーパ)

事業実施期間	平成 27 年度～平成 29 年度【済】 [認定基本計画: 平成 26 年度～平成 29 年度]
事業概要	ビブレ跡地などに高崎オーパを整備し、広域からの集客向上と商業拠点の機能強化を図る。
国の支援措置名	国の支援措置なし

及び支援期間	
事業効果及び進捗状況	高崎駅西口のビブレが閉店し、ビブレの規模を上回る新たな高崎オーパの整備を行った。平成 29 年 10 月にオープンし、多くの買い物客で賑わいを創出しており、また、周辺店舗にも売上げを伸ばす店舗が見受けられるなどプラスの波及効果が表れている。
事業の今後について	広域からの交流人口を誘引する大型商業施設として、周辺店舗も含んだ高崎駅周辺のより一層の集客を図り、まちなかのにぎわい創出につなげていく。

### ③. 個店研修事業（商店街団体）

事業実施期間	平成 26 年度～【未】
事業概要	中心市街地の商店街における個店の経営力や消費者に支持される店づくりを行うために、個店研修の支援を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	「高崎まちなか商店リニューアル助成事業」を活用するとともに、個店の経営指導や消費者に支持される店づくりについての研修事業を行うことにより、個店の魅力が増し、商店街全体の買い物や飲食を目的とした集客に効果をもたらす。これまで、商店街との連携不足により店舗への事業の周知が十分に図れておらず実施実績はない。
事業の今後について	今後、商店街等関係各所と連携し、事業の周知を広く図り、実施に向けて取り組んでいきたい。

### ④. 高崎市まちなか商店リニューアル助成事業（高崎市）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	市内の店舗等で新たな競争力をつけるために行うリニューアル工事にかかった費用の一部を支援する。この事業により、店舗等の魅力や集客力、賑わいや回遊性が向上し、中心市街地の活性化に寄与する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	平成 30 年度本事業の制度を活用した店舗のうち、その約 3 割、100 件程度が中心市街地の店舗となっており、魅力ある店舗づくりが進んだことから歩行者・自転車通行量が増加した。また、制度を活用した店舗には新たなコミュニティが構築されるなど、賑わいや店舗間の回遊性の向上にも寄与している。
事業の今後について	平成 30 年度から 2 回目のリニューアルの申請も認めるなど、個店の魅力のアップのために令和元年度も事業を継続。

⑤. 高崎商都博覧会（高崎商工会議所、高崎商都博覧会実行委員会）

事業実施期間	平成 22 年度～【実施中】
事業概要	商都高崎の魅力を発信するため、中心市街地の大型商業施設 5 店舗をパビリオンと位置付け、各店が趣向を凝らしたイベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 26 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	中心市街地の大型店 5 店舗での買い物や高崎まちなかオープンカフェ参加店での食事等をした人を対象にして、約 2,000 本の景品が当たる抽選会を実施。期間中は多くの人を訪れ、まちなかの経済活力の向上と回遊性の向上に寄与している。平成 30 年度は 4 月に 6 日間開催した。
事業の今後について	今後も、まちなかの経済活力と回遊性の向上のために事業を継続していく。

⑥. 高崎まちなかコミュニティサイクル推進事業

（高崎まちなかコミュニティサイクル推進協議会）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	まちの移動手段の多様化は都市の魅力を高めることから、新たな交通手段として実施する事業。この事業を行うことにより、中心市街地に新たな賑わいと回遊性の向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 26 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	本事業は、平成 25 年度から継続して行っている事業であり、自転車数が開始時の 100 台から 150 台に、サイクルポートが 12 箇所から 16 箇所に増加した。中心市街地を移動する新たな交通手段として事業も定着しており、中心市街地の回遊性の向上に寄与している。
事業の今後について	まちなかの賑わいと回遊性をさらに向上させるために事業を継続していく。

⑦. 地域交流センター整備事業（高崎文化芸術センター整備事業）（高崎市）

事業実施期間	平成 22 年度～令和元年度【実施中】
事業概要	群馬県の玄関口である高崎駅の利便性や高速交通網を生かした広域誘客を図るため、芸術文化創造の中心となる施設を整備し、賑わいと情報発信の拠点とする。
国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎駅東南地区））（国土交通省）（平成 26 年度～平成 28 年度） ②社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（高崎駅東口地区））（国土交通省）（平成 26 年度～令和元年度） ③社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎駅東口周辺地区））（国土交通省）（平成 29 年度～令和元年度）

事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される高崎文化芸術センター（高崎芸術劇場）は、その規模とともに催しの前後における飲食や買い物等に大きな効果をもたらす。平成 28 年度に着工し平成 30 年度に完成する予定であったが、工期に遅れが生じ、令和元年度に完成予定となったため、計画期間の 1 年延長と事業実施期間の変更を行った。
事業の今後について	令和元年 9 月の開館を目指して事業を進めていく。

⑧. 新体育館建設事業（高崎市）

事業実施期間	平成 24 年度～平成 28 年度【済】
事業概要	老朽化した中央体育館を移転新築し、市民が利用しやすい施設・設備とすることで、市民スポーツの普及と振興を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎駅東南地区）と一体の効果促進事業）（国土交通省）（平成 26 年度～平成 28 年度）
事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される新体育館は、その規模とともに催しの前後における飲食や買い物等に大きな効果をもたらす。平成 28 年 12 月に建物が完成し、平成 29 年 4 月に開館した。平成 30 年度の年間の利用者数は 28 万 5 千人となっており、まちなかの賑わいの創出に寄与している。
事業の今後について	広域からの交流人口を誘引する都市集客施設として、大規模大会の誘致・開催等により集客に取組み、まちなかのにぎわい創出につなげていく。

⑨. 群馬県コンベンション施設整備事業（群馬県）

事業実施期間	平成 25 年度～令和元年度【実施中】
事業概要	高崎競馬場跡地に大規模展示施設、メインホール、大規模な学術会議に対応する会議室を備えたコンベンション施設を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（群馬県コンベンション地区））（国土交通省）（平成 26 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される群馬県コンベンション施設は、その規模とともに催しの前後における宿泊や飲食等に大きな効果をもたらす。整備基本計画を見直し、平成 30 年 1 月から建設工事に着手しているが、事業完了を令和元年度末としていることから計画期間内の効果は望めない状況となっている。
事業の今後について	令和元年度末の事業完了、令和 2 年 4 月の開館に向けて計画的に工事を進めていく。

⑩. 高崎だるま市（高崎だるま市実行委員会）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	高崎を代表する伝統工芸品である「高崎だるま」を販売するだるま市を、



	元日からまちなかで開催することで、本市への誘客と中心市街地の活性化につなげていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	元旦・2日に高崎駅西口駅前通りを交通規制して高崎だるま市を開催した。高崎だるまの販売、開運たかさき食堂の出店、おもてなしイベントの開催、初詣無料巡回バスの運行などを実施し、2日間で約35万人の来場者を集めるなど、まちなかの賑わいの創出に大きく寄与している。
事業の今後について	年始に中心市街地の活気を醸成する代表的な事業として今後も継続していく予定。

⑪. 高崎菓子まつり（高崎菓子業組合）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	市内の菓子職人が腕を振るったお菓子を一同に味わうことができるほか、プロが教える菓子づくり体験などを実施することにより、市内外からの多くの誘客を図り、まちなかの賑わいの創出につなげていく。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	平成 30 年度は、中心市街地の広場を会場として、ワンコイン菓子（100 円）の販売、菓子作りやパン焼きの体験、音楽の演奏等を実施し、約 8,000 人の来場者を集めるなど、まちなかの賑わいの創出に寄与している。
事業の今後について	まちなかのにぎわいの創出に寄与する事業として令和元年度も実施していく。

⑫. たかさきハロウィン（たかさきハロウィン実行委員会）【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	こどもから大人まで参加できる仮装コンテストや音楽ライブを実施し、若者だけでなく家族連れなど多くの人々がまちなかを訪れることができる機会を提供する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	2 回目の開催となった平成 30 年度は、仮装コンテストやフェイスペイント、スタンプラリー、フォトスポット設置など様々なイベントを実施し、多くの若者や家族連れにまちなかのスポットを回遊してもらうことで、中心市街地の賑わいの創出、経済活力の向上に寄与した。
事業の今後について	まちなか全体のにぎわいの創出に寄与する事業として令和元年度も実施していく。

⑬. 高崎アートインキュベーション推進事業（高崎アートインキュベーション推進会議）  
【平成 29 年度追加】

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	高崎駅周辺を中心としたエリアで、アート（音楽・美術・デザイン・パフォーマンス等）によるまちづくりを進め、発信型のアートの創造と文化産業の創出等を行うことで、本市への誘客と中心市街地の活性化につなげていく。
国の支援措置名及び支援期間	地方創生推進交付金（内閣府）（平成 28 年度～平成 30 年度）
事業効果及び進捗状況	国際的に活躍するアーティストから新進気鋭の若手まで、13人の優れたアーティストが高崎市に集結し、中心市街地の広場や街路樹、街灯、建物壁面などに作品を制作し、まちなかがアートに染まる「アートプロジェクト高崎」を開催するなど、文化芸術振興はもとよりまちなかの誘客にも寄与した。
事業の今後について	まちなかを歩いて回遊する機会を創出する事業として令和元年度も実施していく。

⑭. たかさき観光情報海外発信事業（高崎市）【平成 29 年度追加】

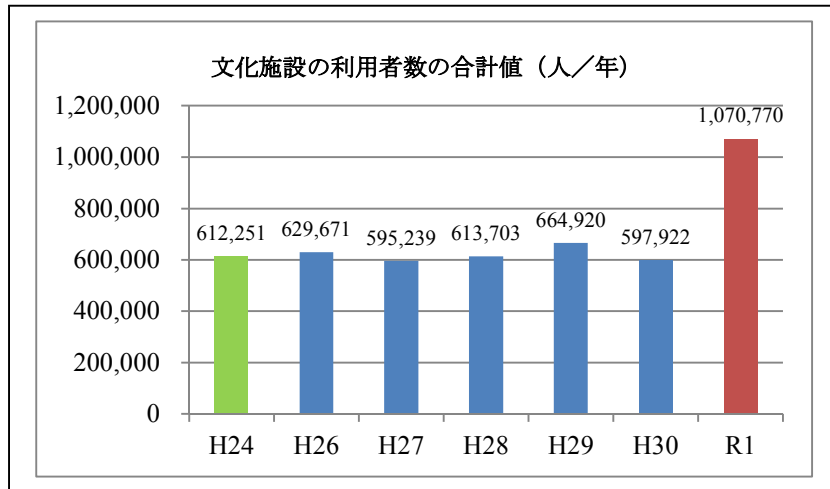
事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	高崎市で認定した「高崎観光大使」が発信している観光やグルメ情報などの地域の話題を、「高崎市外国人観光客おもてなし通訳・翻訳ボランティア」に翻訳してもらい、言語ごとに SNS を利用し、情報発信を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	約 20 名の翻訳ボランティアが、高崎市の魅力ある情報を翻訳し、SNS により情報発信を行っている。平成 30 年度は、6 言語（英語・中国語・台湾語・韓国語・タイ語・ポーランド語）に翻訳し、271 件の投稿を行うなど、中心市街地を中心とした市内各地域への誘客に寄与している。
事業の今後について	外国人を対象としたまちなかへの誘客施策の一つとして令和元年度も実施していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

高崎まちなか商店リニューアル助成事業による個店の魅力アップとともに、平成 29 年度の新体育館、高崎オーパのオープンによる周辺店舗も含む大幅な集客効果の拡大等により、平成 30 年度は基準年値を大きく上回った。目標の達成に寄与する主要事業のうち、新体育館を除くハード整備事業については事業完了が遅れていることから依然厳しい状況だが、今後も、中心市街地への誘引施策等、基本計画に掲載した事業の継続に加え新たなイベントの実施等により、目標達成を目指していきたい。

「文化施設の利用者数の合計値」※目標設定の考え方基本計画 P85～P89 参照

●調査結果の推移



年	(人/年)
H24	612,251 (基準年値)
H26	629,671
H27	595,239
H28	613,703
H29	664,920
H30	597,922
R1	1,070,770 (目標値)

※調査方法：利用者数調査（独自調査）

※調査月：平成30年度

※調査主体：高崎市

※調査対象：群馬音楽センター、高崎シティギャラリー、高崎市美術館  
高崎市タワー美術館、高崎文化芸術センター（高崎芸術劇場）（整備中）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 高崎音楽祭（高崎音楽祭委員会）

事業実施期間	平成2年度～【実施中】
事業概要	高崎音楽祭は、クラシックやジャズなど、期間中はあらゆる音楽が高崎に集結し大きな賑わいを見せている。芸術鑑賞の機会を提供することで来訪者の増加に繋げるもの。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成30年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	幅の広いジャンルの音楽を提供する高崎音楽祭は、群馬音楽センターや高崎シティギャラリーのほか、中心市街地のいたるところでイベントを実施することにより多数の集客効果をもたらしており、年々その数は増加している。
事業の今後について	音楽でまちなかのにぎわいを創出する事業として今後も継続していく。

②. 地域交流センター整備事業（高崎文化芸術センター整備事業）（高崎市）

事業実施期間	平成22年度～令和元年度【実施中】
事業概要	群馬県の玄関口である高崎駅の利便性や高速交通網を生かした広域誘客を図るため、芸術文化創造の中心となる施設を整備し、賑わいと情報発信の拠点とする。

国の支援措置名及び支援期間	①社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎駅東南地区））（国土交通省）（平成 26 年度～平成 28 年度） ②社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（高崎駅東口地区））（国土交通省）（平成 26 年度～令和元年度） ③社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（高崎駅東口周辺地区））（国土交通省）（平成 29 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	高崎駅を中心とした徒歩圏内に新たに整備される高崎文化芸術センター（高崎芸術劇場）は、その規模とともに催しの前後における飲食や買い物等に大きな効果をもたらす。平成 28 年度に着工し平成 30 年度に完成する予定であったが、工期に遅れが生じ、令和元年度に完成予定となったため、計画期間の 1 年延長と事業実施期間の変更を行った。
事業の今後について	令和元年 9 月の開館を目指して事業を進めていく。

### ③. 企画文化事業（高崎市）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	高崎の文化性、ブランド力の中核となる群馬交響楽団の演奏会や国内外のエンターテインメント性の高い芸術鑑賞の機会とともに、市民の文化活動の成果を発表する場を提供することで広域からの集客向上を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	群馬交響楽団では年間 10 回の定期演奏会のほか、年間約 30 回の依頼演奏会を実施している。また、中心市街地のカフェで「Café パーティー with 群響メンバー」を開催するなど、活性化に寄与する事業を展開している。この Café パーティー with 群響メンバーの平成 30 年度の利用者は 135 人で前年度とほぼ同じ水準だが楽しみにしているファンは多く、着実に事業が定着してきている。
事業の今後について	音楽でまちなかのにぎわいを創出する事業として今後も継続していく。

### ④. まちなか音楽活動助成事業（高崎まちなか音楽活動実行委員会）

事業実施期間	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	「音楽のある街・高崎」の実現のため、街かどや商店などにおいて週末を中心に日常的に行われる音楽活動を支援する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 30 年度～令和元年度）
事業効果及び進捗状況	高崎駅西口商業エリアにおいて、地元ミュージシャンが路上ライブを行うための支援や、同エリアで行われる他イベントとのコラボレーション演奏企画を実施するなどにより、同エリアの振興、音楽関係団体やアーティストへの活動の場の提供と育成に寄与した。

事業の今後について	音楽でまちなかのにぎわいを創出する事業として今後も継続していく。
-----------	----------------------------------

⑤. おもてなし事業（高崎市、高崎商工会議所、高崎市中心市街地活性化協議会）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	民間主体の回遊型音楽イベントとの連携や、既存文化施設でのイベントと中心市街地内で展開するオープンカフェや飲食店と連携した割引サービスの実施など、商店街と関係各所が連携して行う取組みを支援し、中心市街地の回遊性向上と集客力の強化を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	本事業は、「音楽関連イベントと商店街の販売促進連携」、「商店街やまちなかの情報発信による誘引」、「音楽関係団体やアーティストへの活動の場の提供と育成を行う高崎おとまちプロジェクト」、「オープンカフェや飲食イベントなどの連携による誘引」、「ぐるりんと商店街の連携事業」、「大型店と商店街の連携事業」から構成され、駅周辺への来訪者を中心市街地全体へ誘引する効果をもたらしている。
事業の今後について	おとまちプロジェクトとの連携によるオープンカフェでのコンサート開催など関係各所が連携した事業を今後も進めていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「文化施設の利用者数の合計値」は、3年ぶりに基準年値を下回る結果となった。これは平成30年度に大規模な催事が少なく、市民団体の展示等の利用が多かったことによる来館者の減少と考えられ、年度ごとの催事の規模、開催数、稼働率の誤差の範囲内と推測される。評価対象施設の1つである高崎文化芸術センター（高崎芸術劇場）の完成・開館時期が令和元年度となったことから、目標達成については依然として厳しい見通しだが、市内外からの誘引・誘客を図り、まちの賑わいを創出するために計画に新たに追加したイベントなど5事業を実施する際に、まちなかを訪れた人に文化施設に立寄ってもらえるよう積極的な情報発信を行うなどして、できる限り文化施設の利用者数を増やしていけるよう取組んでいく。